

三、リーベンスタインに於けるヂーステルウエヒとフレーベル

一八四九年の七月、ヂーステルウエヒがリーベ

ンスタインに來ました、私はこの昔からの友に挨拶を濟ませると直ぐフレーベルのことと私がフレーベルと懇意にしてゐることを話して聞かせました、而してフレーベルが「馬鹿爺さん」と渾名されてゐることを話すと彼は心ゆくばかりに笑ひました。「明朝是非私と共にフレーベルの教室へ同道なさつてフレーベルと相識ちかづきにおなりなさい」と私は言ひました。

「イヤ御免を蒙りませう、愚にも附かぬ教育法は有難くありませんから」と彼は答へました。

けれども私が決して「愚にも附かぬもの」ではないことを極力説明しましたら彼は翌日百姓家なるフレーベルの住居を私と共に訪れることを承諾し

ました。

授業は既に始つてゐました、而してフレーベルは彼の主題に非常に熱心になつて居りましたので背後の開け放たれた戸口から私とヂーステルウエヒの入つて行つたのを例の如く氣が附かずに居ました。ヂーステルウエヒは初めの内は皮肉な面色をして聞いてゐましたが漸次この表情が消え去つて行くと共に今度は非常な熱心が彼の面おもてに現れて來ました、而して彼は遂に感激の餘り涙をはふり落おとすやうになりました、凡そヂーステルウエヒを知る程の人は誰でも彼が平常の出來事に對してこれまで涙などを流したことがないといふことは等しく認むる所であります。

フレーベルが彼の課業を終つた時私がヂーステ

ルウエヒをフレーベルに紹介しますと、ヂーステルウエヒは眞實籠めてフレーベルと相對しました。

フレーベルは非常に悦びました、何故ならば彼は彼の説に對してヂーステルウエヒが前々から贊同の意を現してゐないといふことを聞き及んでゐたからであります、二人はこの初對面に於て既にお互ひに慕しく感じたやうでありました。フレーベルは熱心に而して又例になく明確に彼の思想を開陳しました、二人はあまり夢中に話してゐましたので晝食時が來たのをも知りませんでした、私はヂーステルウエヒに今日はもうこれで引取るやうにと注意しました。

歸りの途に於てもヂーステルウエヒは時々立停つてフレーベルの所説に殊の外満足してゐる旨を私に話しました。私は彼の言々句々にすべてのけだかきものを慕ふ彼の心が如何に強く感激させられたかといふことを思ひました。

「あの人にはまつたく豫言者らしいところがあ

ります」と彼は叫びました、「彼は子供の至奥の天性を看取します、この事はこれまで誰も行つたことはありません、私はまつたく彼に惹付けられてしまひました」

「さうです、彼は誰にでも眞實と人生の福利とに對する至純なる熱情を起させます」と私は答へました。

その時以來殆んど毎朝ヂーステルウエヒは「ムッター ウンド コーゼ リーデル」を持つて私の窓の下に來て「マーレンホルツの奥さん、もう學校が始りますよ」と呼ぶやうになりました。それから機會の許すかぎり私達は午後に於てフレーベルと共に散歩をしてアイディア又はその他の問題に就て意見を交換しました。天氣の悪い日にはこの二人の教育者は大抵私の家へ來ました、而して私達は如何にして新しき教育法を更に押進むべきかといふことに就て考へるべく評議をしました。ヂーステルウエヒは彼の「ウエヒ、ワイゼル」

のために私に序文を求めましたので私は二日の後に彼にそれを與へました、太した値打もないものでしたがフレーベルは熟讀して涙を流しました。

或る夕、私達が會合してゐる時、ディーステルウエヒはゲーテ基金の計畫に關して伯林からの手紙を受取りました。ゲーテ基金といふのはその年（一八四九年）の八月二十八日のゲーテ第百回誕生紀念の日から起される筈になつて居たのであります、而してこの目的のために各市に於て委員が選定されてゐたのであります。ディーステルウエヒは伯林委員會の一員でありました、而して彼は私達にこの基金の目的に對して如何に多くの意見が區々であるかを話しました。私は天才致養のための學校の設立を提起しました、何故ならばゲーテの記念のためには人類に於ける天才の力の無拘束といふことが一番よき寄進物であるからであります。

最初ディーステルウエヒは笑つて居りましたが暫

時考へた後「それも悪い考ぢやありません、今の所では一般民衆の向上を圖るべきです、さうすれば藝術も共に高められて行きます、若き藝術家に對しての贈與金に就ては既に提起されて居ります」と彼は言ひました。

私達は尙その事に就て意見を換して居りました初めの内はまつたく黙つてゐたフレーベルは議論が進むにつれて漸々熱して來ました、而して遂に口を入れて「マーレンホルツの奥さん、あなたワイマルの大公に我々の思惑をお説き込み下さつたら如何でせうか、大公はワイマル委員會の名譽總裁として大變重きをなしてゐらつしやいます」と言ひました。

私はこの委托を果すことを約しました、而して常に善美なるものを求めて歇まない公子に贊同者を獲ました、間もなく大公もイダ女公もアマリア王女も贊成して下さいました、それから其他のワイマルの貴族も私達の計畫に興味を持たれました

私達の計畫といふのはゲーテ基金を以て或る學校を設立しやうといふのであります、その學校といふのは幼稚園に於て高き藝術的天分を現す兒童にその賦與せられた藝術の完全な教育を授ける爲めなのであります。

ゲーテルウエヒは「ゲーテ基金」と題する小論文を私は「徵召」と題する小論文をそれ／＼綴つて私達の計畫に一般からの賛同を得べく新聞に寄せました。

ゲーテルウエヒはその論文の中で次の如く述べました。

「吾人はこの機關を一般的人類の教養並びに特に藝術のために設けんと欲するなり、ゲーテを恥めざる機關は獨創的にして而かも生産的ならざるべからず、即ちそは人類をして藝術の分野に新しき創造を齎すべき生産的なるものたらしむべきものならざるべからず」

それから又次のやうなことも言つて居ります。

「既有的の枯渴せる思想及びこれまで時代を追うて益々甚しきに至れる智識的服従を全然退け去り再び人が人自身の教師たり教育者たることは極めて緊要なる事ならずや」

「ベスタロツチが彼の生涯を通じて努力せる所のもの——家族生活の不可犯性の挽回、教育的天職を全うせしむべく母を教導くこと、人類の教育者に對して相當の意見を抱懷し能ふやうに一般女子を師導して教養すること——以上は彼が完成せる所のものにして彼は以上の努力のために實際的手段を悟得することを得たり」云々

是等の文章を見てもゲーテルウエヒが如何にフレーベル及び彼の主張を理解してゐるかを知ることが出來ます。フレーベルも亦この新聞に次の數行を附加へました——

「理想的なる藝術はそれ自身が目的なれども教育の手段となることに依てその價值を卑しくせらるゝものにあらざることを吾人は茲に力説せんと

す、嘗に獨逸國民のみならず人間種族が完全なる生活に高められ藝術を鑑賞し並びに製作するに至らば豊富なる創造力の權化たる藝術は人類を創造的なるものとして思索し取扱ふことを根本的思想とせる教育的組織に依つて保護せられざるべからず茲を以て吾人はこの教育的組織をゲーテ基金の對稱となすに躊躇せざるものなり」

この目的は長い間私達を専有して居りました、而して幾分か有望らしい兆候が見えて居りましたしかしこの事は竟に達せられずに終りました。

各委員會の多數の人々はワイマルの大公及びベルリンのヂーステルウエヒによつてなされたる提案を承認し且つ之を有効的に支持すべく餘りに僅少の智識をフリーベルの教育法に對して有してゐたのであります。決定的なる多數者は斯る場合には反對しました、理想的な目的といふものは少數者を除いては理解されないものでありますから是等の多數者は智識的利益のためには無慘にも多大

な妨げをなすのであります。

八月の下旬にヂーステルウエヒと私はワイマル女公の招待によつてゲーテの第百回誕生紀念を祝することゝなりました、而して決議が既に果たされてしまつたことを知りました、ゲーテ基金として集められた金は活計に苦しむ若き藝術家へ補助金として贈與せられました。ワイマルのリスツの勢力でこの贈與は殊に音樂家の上に及ぼされたのであります。エツテルスブルグの大公の城内でリスツと會見して私は彼の意見に反抗したのでありますでしたがそれは役に立ちませんでした。リスツは何遍も「天才がいくら苦しんでゐても人々は助けやうとしません」といふ言葉を繰返しました。その後私は彼にフリーベルの教育法の重要なことを悟らせることが出来ましたが、彼はその時幼稚園のために唱歌を作ること約しましたが未だにこの約束は果たされません。

これまで幾度も頼みにしてゐたことの失望に終

つた經驗を嘗め來つたフレーベルは私達の計畫の手違ひになつたことに關して彼自身を如何に慰むべきかを知つて居りました。希望が成就せられて悦ぶといふことの外に彼は既に七月に私達に次のことを悦ばしげに告げ知らせたのであります。それは彼の許に停つて彼の家政及び學校の事務を何時までも掌るべく彼のカイルハウ時代の初期の生徒の一人(フロイライン、レピン)が來ることになつてゐるといふことであります。間もなく彼女は到着しました、而して(フレーベルの言ふ所に從へば)彼女は彼の學校に家族生活の滋味を加へました、フレーベルは家族生活といふことを教育機關に取つて非常に重大なものであると考へてゐるのであります。

フレーベルは眞に父らしき愛を以てすべての彼の兒童を愛しました、兒童は又フレーベルに對して絶大な愛と感謝の念とを懷いて居りました。學校内に於けるこの情愛深き關係はマリエンタール

に行く者を誰でも心よく思はせました、而して關係の薄いものにも同情の念を喚び起させました、而してこの同情の念はリーベンスタインの美しき四周を共に散歩することによつて愈々強められるのであります。

或る時私がフレーベルに如何に深く私が私達の周圍に見出すことの出來るこの家族的感情を味ふかといふことを話した時に彼は「さうです、それは私達を結び付ける思想があるところにのみ可能であります、思想のみが私達を精神的に一體とすることが出來るのであります、」と言ひました。

彼はこれを私達が彼の兒童及びヂーステルウエヒと共にインセルスベルヒへ馬車を驅つた時に車の内で言つたのであります、私達は夜になるまで歸りませんでした、日が全く暮れてしまつてから又馬車に乗つて歸りました、よく晴れた星空はフレーベルを誘つて彼の生徒に星座を指示させ又私達の頭上に輝いてゐる世界の體系に就て話させま

した。彼は他のことを云つた序でに次のやうなことを言ひました。

「蒼空は聊かでもあれば私達にすべての實在の結合を認めさせます、而して私達を渾一——神にまで導いて行きます、天體の内には孤立してゐるものは一つもありません、すべての遊星はその系統に屬する恆星を中心として居ります。すべての太陽系統は互に關係を有し又絶えず互に作用してゐるものであります。これこそすべての生活の條件であります、何處にも各部分の相互作用は存在します。天なる星の間に破れざる結合と調和が支配してゐると同じやうに下なる大地の上に於ても如何なる小さな事にまでもこの法則のあらはれを見ること出来ます、何處にも同じ秩序と調和とがあります、何故ならば同一の法則があらゆる所を支配してゐるからであります、神の一の法則、それはあらゆる形を取つて現れてゐますが究局の解剖に於ては一となるのであります、何故ならば

神はそれ自身が法則であるからであります。天體は砂粒のやうに組織されて居ります——大宇宙と小宇宙とは互に相一致します、兩方とも組織せられたる全體であります、けれども組織は最も單純なものより最も複雑なものに至るすべてを支配します、神の創造せるあらゆる方面。現象の無限なる種々相に於て私達は常に統一に出會ひます、而して私達はそれから推して私達の知覺しない所までも悟らなければなりません、渾一が持續されなければ破れざる結合は不可能であります」

デーステルウエヒは茲で一寸口を入れました
「それは萬有神教と人々が呼ぶものです」
フレーベルは答へて言ひました。

「がそれは間違つてゐます。萬有神教の見解は成長しすぎてゐます、而して私達は分つべからざる渾一には最早何等の關係もありませんが三位一體に就ては考ふべきであります、三位一體は分らないといふ理由の下に人々が拒む所の隅石となり

ました。神の三部統一は見ることの出来る眼には神のすべての作物の中に明白であります。私達は常に又あらゆる方面に於て兩極とその中間物との三位一體トリニテイを持たないでありませうか。而して又何處にか又如何にしてかその中間物並びに渾一を伴はざる兩極が何處に存在しませうぞ。あらゆる方面に現れてゐる是等の兩極は宇宙若しくは最も小なる組織(作用と反作用)に於けるすべての運動の原因であります。かるが故にすべての進展には闘争を必要とします。しかしこれは遅かれ早かれ平衡を得なければなりません、この平衡は全體のすべての部分に調和若しくは一致を作るべき兩極の中間物であります。調和はすべての組織の花時であります、これは智識の世界にも物質的世界にも見出さるのであります。すべての植物は私達に兩極の結合——內的と外的、力と物質、原因と作業、可見と不可見等を語つてゐるではありませんか。けれども私は萬有神教論者の如く世界は神の

體で神は宛も家に住む如くその内に住むとは言ひません。けれども神の心は自然の中に住とどつて生息しすべての物を普通の生活原理として産出し養成し開陳するのであります、同じやうに又神の心は神の作物の中に住つてそれを産出し養成し保存するのであります。藝術家の心が彼の傑作に於て再び見出されるやうに私達は神の作物に於て神の心を看取しなければなりません。

私達はその作物の中なる造物主を知ることが出来るやうに私達の子供の眼を開いてやらなければなりません、子供達は可見的事物を通して造物主としての神を發見し推察する時に於てのみ彼等は神といふ言葉——心靈の神、誠の神——を理解するやうになり又基督教信者ともなることが出来るのであります。最初は可見の世界であります、次に不可見の眞理——アイデアであります。可見の兩極は幼兒のためには言語によつてなく現象によつてのみ結合せらるべきであります。そ

それは最初は幼児にその印象を與ふるに止ります。

私の「ムツター ウンド コーゼ リーデル」はこの事のなされ得ることを示して居ります。夫等の歌を通して母親達は子供の心靈が如何にして早くから眞理の知覺のために準備せられ得るかということを學びます。少年時代に於ける宗教的準備なくしては眞の宗教も神との合一も人に取つて不可能であります。神を信ずるといふことはすべての人、すべての子供の先天性であります。たゞそれは正しく覺醒されなければならぬのであります、すけれどもそれは覺醒されなければなりません、然らざればそれは何時までも生氣を持ちません。斯ういふ調子で私達は長い間話をしました、而してフレーベルの云つたすべてのことから深き神の信仰と眞摯なる宗教的の心が輝きました。彼は常套的な兒童の宗教教育に殆んど賛同してゐませんでした。けれども彼はその意に充たざる宗教教育に代ふべき彼自身の考案に係る何物かを有し

てゐました。

フレーベルに何故彼が樹木を選んで智識的世界の組織と進展の普遍的過程を表象したかといふことを尋ねますと彼は次の如く答へました。

「組織的生活とその諸部分の相互關係を現すものを自然界に求むるに樹木に若くものはありませぬ。種子(渾一)は萌芽に於て二部に分れます、而して進展のすべての階段は完全に達するまで定められた通りに明瞭に續きます、根と葉團とは反對の同格物であります、何故ならば大地に植ゑられた葉團は日光を欠くが故に根となります、そり返つて地上に現れ日光に曝された根は葉團と變じます。樹木に於ける是等の二つの關係せる二つの反對は幹によつて結合されて居ります、幹はその内に木質の根の要素と葉團全體に分布さるべき活力を含んで居ります。織枝と葉の連結に於て私達はすべての連結、大小の枝と織枝、これに結合されてこれからその生命を得て居る葉の塊りに至るま

でが連結の典型をなして居ります。

同様にして人間社會の必然的連結も國家の組織も表現せられて居ります。至小より至大に至るすべての部分に現れてゐる渾一は樹木にその個性を與へます。例へば菩提樹の匂ひに特有な甘美は葉の色にも幹及び根の撓性にも再びこれを求むることが出來ます。すべての部分は皆同一の特質を示して居ります。花も葉も等しくある特質を語つて居るのであります。之に反して榧はこれと反對な性質を示して居ります。榧のすべては力と集中とを語つて居ります。——節くれ立つた根も幹の皮も堅緻な木質も硬ばつた葉も舌を刺すやうな味のある果實もすべて上に述べた性質のあらはれを持つて居ります。菩提樹も榧も樹木の普遍性に於て變りはありませんが各はその様式即ち特有性に於て分れて居るのであります。

茲に於て私達は(すべての部分に共通な)渾一と(部分の不同に於ける)變化と(樹木の特有性を現

してゐる)固有とは樹木の現象に於て結び合されて居り又明かに現されて居るといふことを感ずるのであります。それですから樹木は自然的^{シゲル}生活、智識的生活即ちすべての組織の明瞭な表象^{シゲル}なのであります。キリストも亦「ゼ、ツリー、オブ、ヒエウマニチイ」といふ言葉に於て人生を樹木に擬へました。

フレーベルの思想及び理論の深い方面は偶^{たま}から引き出されます。けれども彼がその教育的理想を置いてゐる所の彼の世界觀の原理に觸れるときは直ちに彼の表現と彼の形式は彼が私に送つた手紙に書き示した如くに非常に明晰となります。彼は又基督教及びその深遠なる教義の上に如何にして己を明かに現すべきかといふことを知つてゐました。彼はその教育的理想の適用及びそれを實際生活に應用することに關しては彼自身をてきぱきと處することは出來ませんでした。何故ならば彼はそれを無數の迂曲を盡して行はんとしたからで

あります。このことに對する一つの理由は彼の心が彼のなし遂げることの出来なかつた仕事——それを完成させるためには多くの生命と多くの年月とを要する仕事に全部惹き寄せられてゐたといふ事實に存するのであります。もう一つの理由としては彼は老人の説を正しく理解してゐてそれを彼一流の話調の中へ捉へ來つて幾度も繰返し同じことを種々な言ひ現し方によつて現さうとしたために却つて彼の望んでゐた明晰といふことの反對が結果として現れたのでありませう。主としてこの理由からフレーベルの書いたものは不分明であり又一般を通じて讀まれないのであります。これと同時に新しい思想や新しい理論といふものは誰にでも同じやうに了解されるやうにすることは不可能であるといふことが記憶されねばなりません。ヂーステルウエヒさへもフレーベルの考の分らなかつたことは屢々あります、けれどもこの偉大なる教育者は他の者の如く自分に分らない所があ

るの故を以てフレーベルの主張を否定したり又之を捨て去つたりするやうなことはありませんでした、彼は屢々私に言ひました、「フレーベルの思想に就て私の理解してゐる所のものが私をしてあるものをそのものが少ししか成し遂げられてゐないといふ故を以て排斥してはいけないといふことを悟らしめてくれます、フレーベルの主題には未だなさるべき多くの事柄があります。既に實際的適用のために準備せられた材料は優れたものであります、それにはフレーベルの思想が明かに現されて居ります。それは尙進んでフレーベルとベスタロッチが相會ふ學校にならなければなりません。時として私がヂーステルウエヒに彼の著作に於てフレーベル教育法の適用を説明すべくもつと深くフレーベル教育法を研究なさいと勧めますと彼は次の如く答へます。「それは他の者のすることとして私のすることではありません、私は學校當事者としてベスタロッチに關して解くべき問題を有し

て居ります」(誠や彼はその問題を解き去つたのであります)彼は尙言ひます「フレーベルの方法を幼児に實際的に適用するのは女子——母及び嫗姆の任であります、この教育の初歩を掌るべく女子の適任なることは認められてゐる事であります、それから第二段即ちヘスタロッツの學校法を適用すべき時代が來るのであります、けれども私はこの事を行ふには餘り年を取りすぎて居ります、私は既に自分の力以上に澤山の仕事を持つて居ります」

フレーベルとヂーステルウエヒとは外貌が對照をなしてゐたばかりでなく兩人はその心的賜物及び心的賜物の使用法に於て又對照をなして居りました、フレーベルの丈の高い瘦せた身體はヂーステルウエヒの丈の高い肥つた岩丈作りの身體の反對でありました。フレーベルの顔は尖つて角ばつてゐました、ヂーステルウエヒのは圓く肥つて居りました。兩人とも高い鼻をもつてゐましたがフ

レーベルのは殊に高くありました、フレーベルの顔の表情は非常に思索的で自分に惹き入れられてゐるやうな所があります、ヂーステルウエヒのは外界の事物を仔細に觀察しやうといふやうな而して又愉快な表情であります、フレーベルは自己の専門以外に關しては批判的能力を缺いてゐましたがヂーステルウエヒはあらゆる方面に多分の批評眼を具へて居りました、而してこの二つの心は同じ分野に働いて居たのでありますがその方向は甚しく異つて居りました。ヂーステルウエヒは教授法の分野に於て熟達者と認められてゐましたがフレーベルの特に問題としてゐる所は一般に教育といふことであります、全き人の進展といふことであります、而して人格の構成といふことに意を注ぐために行爲と産出とに對する準備といふことを問題として居りました。この目的が人生の初期に於て新しく教育を始めるといふことに重大なことであると彼には考へられたのであります。ヂース

テルウエヒは理解を作るためにベスタロツチと共に努力しましたがフレーベルは寧ろ意志と活動力を作らうと圖りました。ヂーステルウエヒは教育學の分野に於て優れた實際的天才によつてまのあたりの現在に影響感化を及ぼしましたがフレーベルの感化といふものは之を未來に待つ他はありません。フレーベルの如く新しき思想を以て恵れた者は實現せられるには間のある高級な靈感インスピレーションの陽燧であります、而して彼等の仕事は彼等が生涯に於て外的世界に於て大なる權威を持つことが出来る位に極端に内面的なものであります。尙又フレーベルは發見者でありました、而してすべてのことが外的の適用に對して完備せらるゝまでは黙々として研究してゆかなければならない發見者でありました。

是の二個の偉人が多くの點に於て互に反對ではありましたが彼等は又他の點に於て内的に結び付けられて居りました、二人は共に感情の強い温い

心を懷いた深い獨創性を有して居りました、二人は人類のために働くといふことを自覺してゐました而して全く自己棄權をして一生涯努力し苦闘しました。

私は常にこの二個の高貴な心と優れた人柄とに親交をもつてゐたこと及び彼等の氣高き教育事業に私の関り合つてゐたといふことを得難き幸福であつたと信じて居ります。

親しく其の人に接するか、其の人を最もよく識つて居る人の話を聽くか、此の二つの他に、偉人を學ぶ途はありますまい。私共はフレーベルの許へ馳けて行つて、直接に學び得たらばと思ふことが胸一ぱいにあるのですけれど、それは出来ないことです。たゞし幸に、其の著書や自傳や書翰によつて學ぶことが出来るのですが、どこまで誤りなく、殊にどこまで深く私共に學び得るかといふことは、自分ながら危ぶまれます。此の時誰れかフレーベルを最もよく識つて居る人が欲しくなります。併し、フレーベルをよく識つて居るといふ人々殊に學者からは、此の偉人に對する理解の正しさは充分與へられても、理解の深さに於て物足りないことが往々あります。——私は、さういふ時に、何よりの書として、此のビュウロウ夫人の「フレーベル追懷録」のあることを嬉しくも有り難くも思はれてなりません。(倉橋生)